

# 新登場の酒、名は「西東京」



〔西東京〕の一升瓶を持つ鶴田清司さん(左)と山崎明さん。西東京市谷戸町

## 市内酒店 活性化へ共同販売 ラベルは地元の切り絵作家

その名も「西東京」という純米酒が誕生した。製造したのは、日本酒のコンクールで数々の賞に輝いてきた新潟県佐渡市の尾畑酒造で、平島健佐渡市長が西東京市(旧保谷市)の出身であることが縁でつくられた。先月発売され、市内の酒店約30店で購入できる。ラベルには、市内にある電

波塔のスカイタワー西東京や、多摩六都科学館のプラネタリウム、市の木ハナミズキをあしらっている。市内在住の切り絵作家・小出菟さんが



「西東京」のラベル。旧田無市が青梅街道の宿場町として栄えたことをイメージしている

描いた。西東京市小売酒販組合の山崎明・組合長(53)は「お土産にできるし、晩酌にもいい。地元の人に愛着を持ってもらえたらうれしい」と話した。裏のラベルには「2001年、旧田無市と保谷市が合併して発足しました」といった西東京市誕生の経緯も書いてある。

プロデュースしたのは、市内で酒店や飲食店を営む鶴田清司さん(52)だ。西東京市には酒蔵がないため、「ゆかりの酒を西東京市の名物にした」と探して、平島さんとの縁をみつけた。

尾畑酒造は1892年創業。「真野鶴」の銘柄で知られ、全国新酒鑑評会の金賞など国内外で何度も受賞している。平島さんは東京の大学を卒業して雑誌編集者をしてきたが、結婚して、妻の実家で

ある尾畑酒造の5代目になった。

鶴田さんが「冷やでも常温でも温めてもいい純米酒を」と依頼して、「新潟らしい、くせない淡麗辛口の酒をご提案いただいた」。飽きのこない味で、「最初に青竹を思わせるさわやかな香り、あとから米由来のやわらかな香りが追いかけてくる」という。この純米酒を「西東京」ブランドで、組合加盟の市内酒店で皆で売る。西東京市が生じた頃は加盟酒店は約140店あったが、今は30店を切る。「西東京」には、町の酒店が元気を取り戻す起爆剤としての期待もかかっている。税抜きで720mlが1250円、一升2500円。問い合わせは、田無地区酒販協同組合事務局(042・460・3288)へ。(河原理子)

# 東京

千代田 中央 新宿  
港 文京 品川 北  
目黒 大田 世田谷  
渋谷 中野 杉並  
豊島 板橋 練馬

速報や写真・話題の提供、催しなどの連絡先

朝日新聞 東京総局  
〒104-8011

中央区築地5-3-2  
☎ 03-5541-8436  
fax 03-3546-2019  
mail tokyo@asahi.com

購読・配達のご用は  
☎ 0120-33-0843  
(7:00~21:00)

広告のご用は  
☎ 03-3547-5552  
折り返しのご用は  
☎ 03-3544-7621